

## (神子元島レース レースコミティー記)

### 2013 神子元島レース、いざ、スタート！

レース委員長 近藤 等

9月28日(土)10:00、本部船「レディーラハイナ」(Y33S)はJSAFクラブバージを音響信号1声とともに降下した。パピヨン(Soto40)、コンテッサXIII(First40)、テティスー4(First40.7)、エブリシングエブリシング(Y33SII)の全4艇が北東の風13ノットの中、スタート。オールフェアのスタートである。素早く、スピン・ジェネカーをホイスト、軽快な帆走で見る見る船影が小さくなって行く。初秋にもかかわらず照りつける日差しの中、なんとも美しい走りにしばし目を奪われる。

そう！伝統の神子元島レース99マイルのスタートである！  
4年振りの光景に本部船上6名の皆が感慨に浸る。  
その後、アウターマークを回収、小網代湾口にフィニッシュラインを設置して本部船は一旦京急マリーナに帰港、フィニッシュの諸準備に取り掛かる。

さかのぼること8月30日、レース公示を外洋三崎ホームページにアップ。恒例の相模湾ヨットフェスティバルレースの対応に奔走され公示が遅れたため、エントリー艇の数次第ではレースの成立が懸念された。開催時期を例年の10月中旬から9月に移動しての実施だ。「なんとか」の思いで外洋レースに関心のあるオーナーやマネージャー各位にも働き掛けをおこない、4艇の参加表明を受け取ることができた。いずれも島回りレースを得意としているベテラン艇ばかり。「怖い」イメージが先行する神子元島レース「なんのその」なのだろう。心からのエールだ。

平日の仕事を持っているレース運営スタッフにとっては怒涛の週末の始まりだ。レース前には台風20号の影響を心配したが、台風通過後高気圧の張り出しで逆に風不足？などと、いつもながらの運営病だ。スタート前日の金曜日午後、早乗りスタッフが集合し、安全を優先して各種段取りを行う。さて当日28日(土)早朝7時に全員が京急マリーナ集合、天気は最高。沖の海面もすこぶるフラットに見える。スタート機材を載せた本部船は08:30出発、09:20L旗掲揚しチェックイン開始。全艇問題なくエ終了、北東の風13kt中のスタートを迎える。

天気予報では風速13~16ノットが吹き続ける模様、神子元島のリアルタイム情報では北東20ノット、これはレース展開が速いのではないか。昔に比べたら今のレース艇の速さは格段に向上している。「風次第ではあるが暗くなる前に神子元を回航できれば」

と、スタート時間を少しは早めに設定したこともあり、さらに参加艇の力量も考え、神子元島を明るいうちに回航すると予想をたてる。案の定、最初の 18 時ロールコールを待たずして神子元島灯台 Mg0° の回航連絡が入ってきた！高速艇・パピヨンからだ。15:00 回航、風速 25 ノットとのレポート。運営スタッフ一同驚きの表情である。速い！パピヨンに遅れること 54 分、15:54・風速 17 ノットにてコンテッサ回航、続いて 16:05・風速 14 ノットでテティス回航、最も低いレーティングのエブリシングエブリシングからも 16:15 回航との連絡が入る。小網代沖から神子元島まで約 50 マイルを爆走、5 時間～6 時間 15 分で全艇無事に神子元島を回航。先ずは安堵する。

15:30 海上運営チームは深夜のフィニッシュを想定して早めの出港。16:30 には小網代湾口のフィニッシュラインを設置完了。アウターブイのキセノン灯点滅も確認。さあ、あとは 4 艇の雄姿を待つばかりである。

18:00、第 1 回ロールコール開始。神子元島回航からまだ 2、3 時間である。パピヨンはラムライン上の風早手前、コンテッサは稲取岬手前、テティスは大島に寄せた東寄り、エブリシングエブリシングはコンテッサ後ろ約 3 マイルに位置している。各艇からは風速が落ち、8～12 ノットの北東から東の風、艇速も約 4 ノットに落ちているとの報告、深夜から明け方のフィニッシュか。

1 回目のロールコール後、小網代湾口も風が落ちはじめ、南西ブイ、神子元島、大島ともに北東の風だが風速が落ち傾向となっている。支援の深夜スタッフも本部船に到着、フィニッシュに備えて一休みする。

24:00 の第 2 回目のロールコールに備えるべくしていた 22:48、本部船携帯が鳴る。パピヨンである。フィニッシュ 1 時間前コール、北北東・風速 14 ノット・艇速 8 ノット、23:30 頃フィニッシュとのこと。

23:35 頃、沖からトン・ツーのライト、A 符号である。23:44 パピヨンが栄光のファーストフィニッシュ。それも日を越さずのフィニッシュ、やはり速い！

その後、測った様に 1 時間毎に残り 3 艇がフィニッシュする。00:57 コンテッサ、01:53 エブリシングエブリシング、02:53 テティス。どの艇も「お疲れ様」の明るく達成感に満ちた声。「面白かったよ！」の声。うらやましくなる。よかった。よかった。

終わってみればあっという間の神子元島レースだった。艇によっては沖合での携帯電話連絡に機能的問題が見られたが、無事にコミティーを終えることができたのは幸이었다。

1956 年に第 1 回が開催され、57 年間の伝統を誇る神子元島レース。多くの外洋レー

サーの胸にそれぞれのドラマを残し、その激闘ぶりが語り継がれる神子元島レース。いまや数少ない本格的オフショアレースとなっているが、その存在感は別格だ。来年も多数の参加艇を得てさらなる盛り上がりを見せることを期待したい。

以上